

前回定例会（平成30年5月10日）以降の主な動き

平成30年6月6日
資源エネルギー庁
柏崎刈羽地域担当官事務所

1. エネルギー政策全般

(1) 総合資源エネルギー調査会基本政策分科会（第27回）【5月16日開催】

エネルギー政策基本法第12条及び総合資源エネルギー調査会令第6条の規定に基づき、エネルギーの需給に関する基本的な計画（エネルギー基本計画）などについて検討を行う。

現行のエネルギー基本計画（平成26年4月策定）は、策定から3年が経過。エネルギー政策基本法で定められている検討の時期になったため、平成29年8月から新たな議論を開始。

第27回は、第5次エネルギー基本計画（案）について議論。

<パブリックコメント（意見募集）>

意見募集期間：5月19日（土）～6月17日（日）【必着】（30日間）

意見募集ホームページ：

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=620218009&Mode=0>

2. 電気事業関連

(1) 総合資源エネルギー調査会電力・ガス事業分科会電力・ガス基本政策小委員会（第9回）【5月18日開催】

電力・ガス分野の幅広い政策課題について、安全性、安定供給、経済効率性、環境適合性というエネルギー政策の基本的視点から総合的な検討を行う。

第9回は、電力・ガス小売全面自由化の進捗状況などについて議論。

(2) 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会（第23回）【5月18日開催】

電力システム改革の目的（①安定供給の確保、②電気料金の最大限の抑制、③事業者の事業機会及び需要家の選択肢の拡大）達成に向けて、各制度の実効性を高めるため、実務的な観点を十分に踏まえるべく、幅広い関係者に意見を求めつつ、詳細制度の検討を行う。

第23回は、容量市場、中間とりまとめについて議論。

(3) 高速炉開発会議 戦略ワーキンググループ (第10回)【6月1日開催】

今後10年程度の開発作業を特定する「戦略ロードマップ(仮称)」の策定に向けて、実務レベルで技術的な検討を行う。

第10回は、仏国の高速炉開発の状況、高速炉に関するこれまでの技術開発について議論。

3. 新エネ・省エネ関連

(1) 総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会 (第6回)【5月15日開催】

再生可能エネルギーの大量導入とそれを支える次世代電力ネットワークの在り方について、政策対応の具体化に向けた検討を行う。

第6回は、中間整理(案)について議論。

4. その他

(1) 海外有識者を招いた電力市場セミナーの開催【5月29日発表】

経済産業省は、日本の電力自由化の進むべき方向性について考えるための電力市場セミナーを開催予定。

同セミナーでは、電力の小売市場・卸市場の進展、市場の価格変動等に対するリスクマネジメント及び発電分野における中長期的な発電投資といった項目を取り上げ、先行して電力自由化を進めてきた欧米の経験と教訓を学ぶ予定。

日時：2018年6月14日(木曜日)9時30分～17時30分(9時受付開始)

場所：イイノホールカンファレンスセンターRoomA

地下鉄霞ヶ関駅(C4出口直結)東京都千代田区内幸町2-1-1

その他：参加費無料、同時通訳つき

※プログラム等の詳細は、以下の資源エネルギー庁ホームページを参照

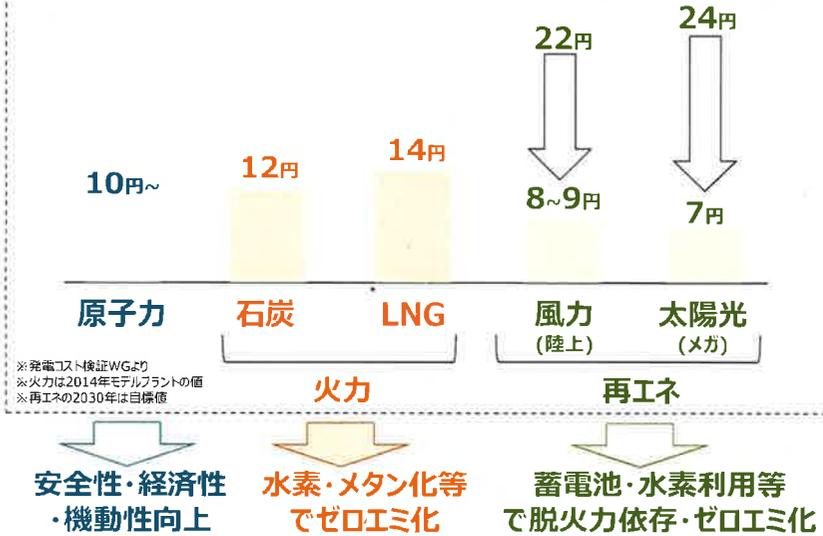
<http://www.meti.go.jp/press/2018/05/20180529003/20180529003.html>

(以上)

野心的複線シナリオの具体

発電コストからシステムコスト検証へ

<発電コスト：足下 → 2030年>

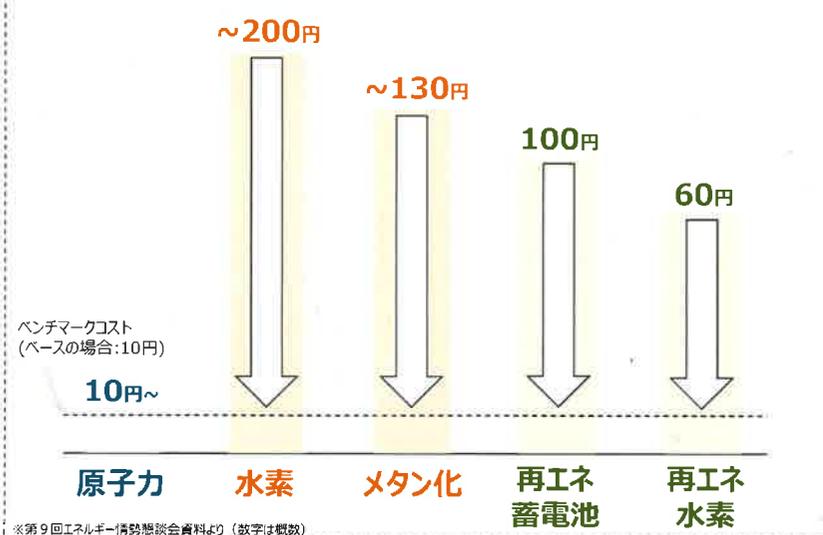


※発電コスト検証WGより
 ※火力は2014年モデルプラントの値
 ※再エネの2030年は目標値

安全性・経済性・機動性向上
 水素・メタン化等でゼロエミ化
 蓄電池・水素利用等で脱火力依存・ゼロエミ化

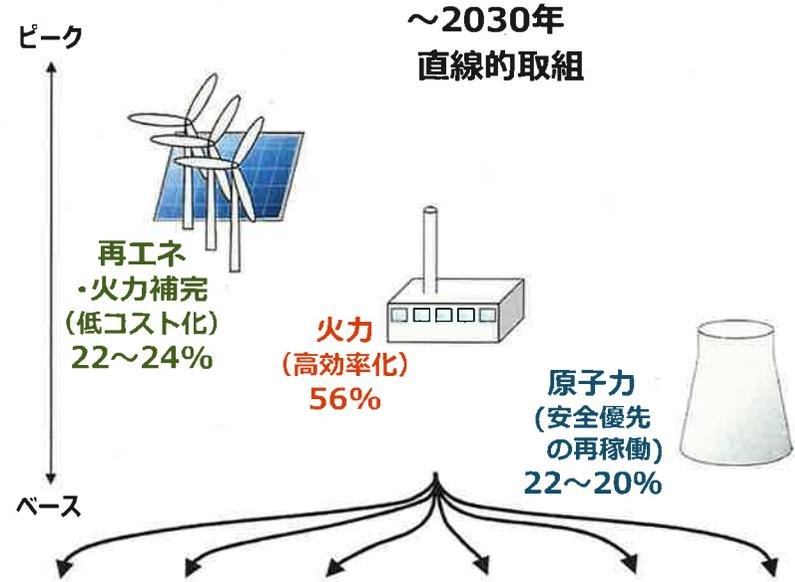
発電コストから
 脱炭素化システムコスト検証へ

<システムコスト：足下→2050年>

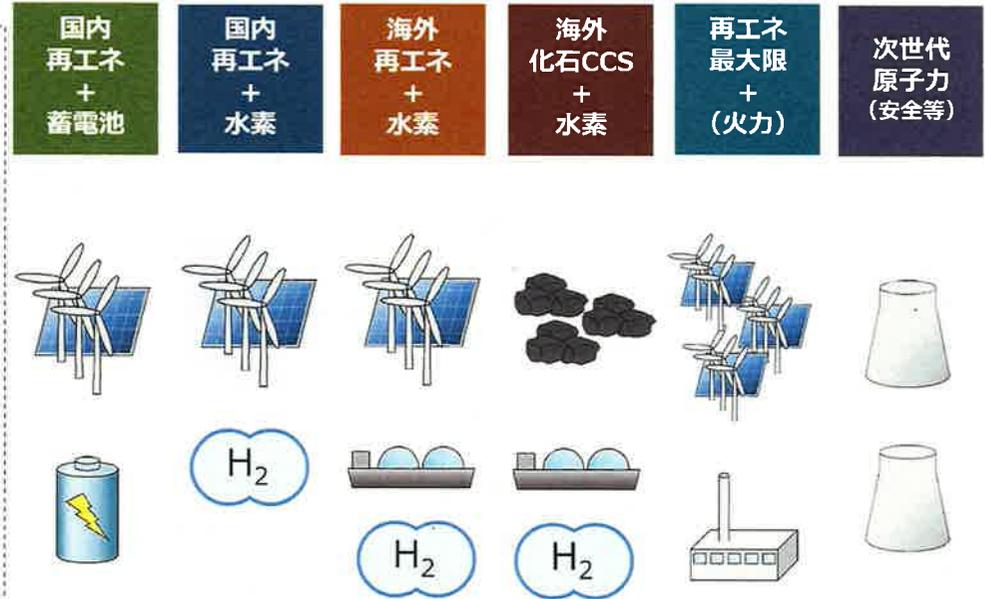


※第9回エネルギー情勢懇談会資料より (数字は概数)

30年単一ターゲットから50年複数ゴールへ



~2050年 野心的複線シナリオの例



複雑で予測困難な環境下での2050年シナリオ設計に適した複線シナリオ

～ 「多様性を加味したしなやかなシナリオ」とするため、常に最新の情勢・技術を360度で把握し、行動するプロセスが必要。

- 相応の蓋然性をもって
予見可能な未来
(予見性⇔現実的)
- インフラ・システム所与
 - ✓ 既存の人材
 - ✓ 既存の技術
 - ✓ 既存のインフラ

- 不確実であり、それゆえ
可能性もある未来
(不確実性⇔野心的)
(VUCA : Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)
- インフラ・システム可変
 - ✓ 人材育成
 - ✓ 技術革新
 - ✓ インフラ更新

実現重視の直線的取組
(PDCAサイクル)

多様な選択肢による
複線シナリオ
(OODAサイクル)

